

平成30年度 岐阜県地方改善促進審議会 議事要旨

1 日 時 平成31年2月21日（木） 13時30分～15時

2 場 所 岐阜県議会西棟 第一会議室

3 報告事項

- (1) 地方改善促進審議会委員の改選について
- (2) 平成31年度同和対策関係予算（案）の概要について
- (3) 平成30年度同和問題解消に向けた啓発活動について

4 報告事項（1）に関する質疑、発言要旨

特になし

5 報告事項（2）、（3）に関する質疑、発言要旨

- 【委員】**
- ・平成30年度の取り組みの中で、SNSの問題について取り上げられているように、身近なところで様々な人権侵害があります。相手の人権を尊重するという根本は同じですので、例えば、子どもたちには、同和問題のみならずSNSの問題について、幅広く啓発してほしいと思います。
 - ・入管法が改正され、外国人の方がたくさんいらっしゃるので、今後は外国人の方の人権も含めて取り組んでいただきたい。
 - ・子どもの人権、虐待や体罰の問題について、「子どもの人権とはどういうものか。」について、子ども自身が考えられるような、「自分たちに人権はあるんだ。親から虐待を受けたら、それはおかしいと言っていいんだ。」という力を育てるような啓発も含めてもう少し幅広く取り組んでいただければ良いなと思います。

【人権施策推進課】 様々な人権問題がありますが、それらを幅広く啓発させていただいている中で、ご指摘のありました外国人については、この四月から入管法が改正され、流入が増えてくるということが予想されます。外国人に対する偏見・差別があってはならないということで、平成31年度の予算の中で何か対策がとれないか、予算の有効活用も含めまして検討しているところです。また、子どもの人権に関しましても、小学校6年生と中学校2年生の全ての保護者にあてた啓発資料を作成しており、ご家庭の中でお子さんとこれを見ながらいろんな話ができるようさらに工夫してまいりたいと考えております。

- 【委員】**
- ・同和問題は、人々の努力と協力によって大きな変化が起こり、人々の意識にも大きな前進が見られたのは間違いないことと思います。そういう大きな成果があったにも関わらず、インターネット上で部落差別を煽るようなことが続いている。

- ・私が思うのは、人権は天から与えられたものという姿勢ではなく、自分自身を通して考え、自分の言葉で語ることが大事です。身近なところから感じて、考えるということの大事さ。最初から「人権」等の漢字を持ち出して、そもそも論は言わない。そうすると特に子どもは言葉で考えず、心で受け止めるから、パッと気づく。子どもは、大人が一生懸命語りかけていることを理解できるということです。私たちは、どうしても漢字2文字で話を始めてしまう。漢字熟語で語っているうちに大切な部分がこぼれ落ちてしまうのではないかとというのが私の体験です。人と人の間というのが人間らしいもの、温かいもの、優しいもの、そういうものがある初めて、それが法律や制度に血が通い意味を与える。人権になると思います。
- ・現在の岐阜県における部落差別の状況というものは見えてこない。特に西日本では、地域における高齢化、少子化、人口の流出に伴う流入がすごく大きくなっている。ある程度若くて経済的・文化的な元手を得た人は地域から出ていき、戻ってこない。逆に困難な条件を持っている人が外から入ってくる。現在の問題は、外からいろいろ困難な条件を持った人が地域に入ってきて、地域に残る高齢者とそこで困難に立ち向かって暮らさなければならないところにあります。そういう中で考えるのであれば、「人権」というものを首座に据えて、響き合い重なり合う感性の広がりや深まりというものに軸を置いたところに、同和問題も位置づけるということが必要だと思います。

6 その他、発言要旨

【委員】 現在の任期の満了をもって退任する意向の委員から退任あいさつ。